

# 大学入試改革の現状について

大学入学者選抜は、各大学がそれぞれの教育理念に基づき、生徒が高等学校段階までに身に付けた力を、大学において発展・向上させ、社会へ送り出すという大学教育の一貫したプロセスを前提として、各大学が「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）や「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ定める「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）に基づき、大学の入口段階で入学者に求める力を多面的・総合的に評価・判定することを役割とするものです。

大学入試センター試験は、大学に入学を志願する者の高等学校における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、大学が共同して実施する試験であり、平成31年度大学入学者選抜においては、全体で約73.5万人の入学志願者の内、約54.6万人が大学入試センター試験を受験しています。

入学者選抜の方法について各4年制大学の募集人員を集計すると、センター試験を利用する入学者選抜が約16万人（27.3%）、センター試験を利用しない大学独自の一般入試が約21万人（34.5%）、AO入試・推薦入試等が約23万人（38.2%）となっています。

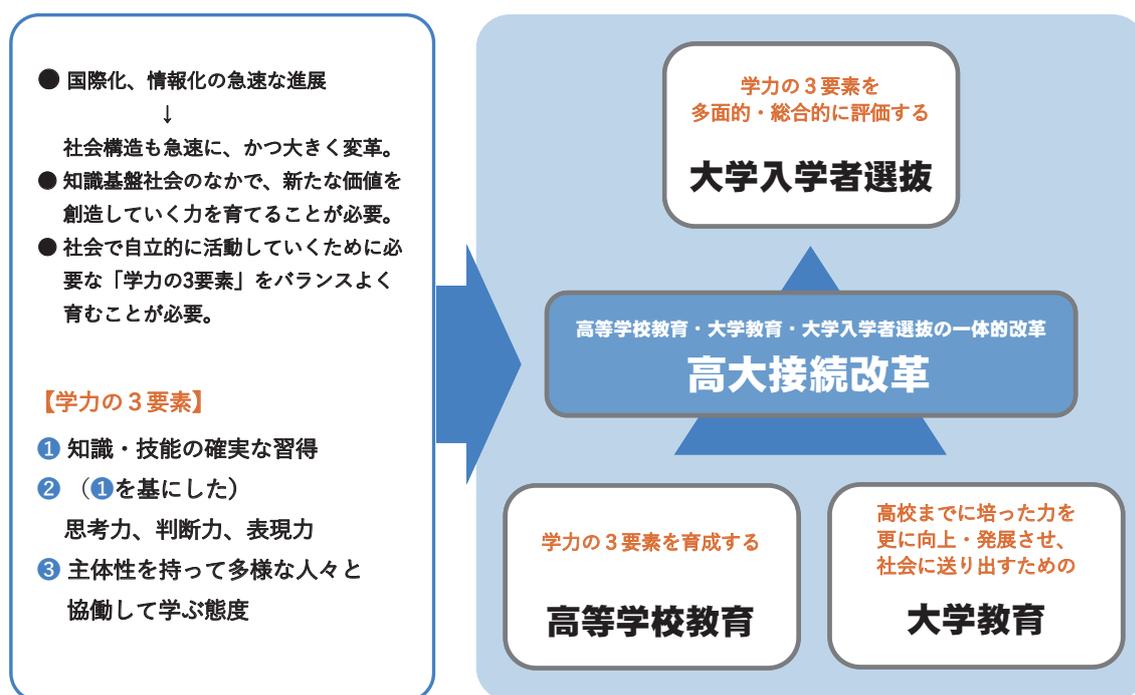
## 1 高大接続改革について

我が国は今、グローバル化の進展や技術革新、生産年齢人口の急減等、大きな社会変動の中にあり、この状況下で問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造する力が重要になっています。このため、文部科学省では、①知識・技能、②思考力、判断力、表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、これらの「学力の3要素」を確実に育成・評価するため、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の三者の一体的な改革である、高大接続改革の取組を進めています。

そのうち、大学入学者選抜の改革については、高校までに育成した「学力の3要素」を大学入学者選抜で多面的・総合的に評価し、大学教育において高校までに培った力を更に向上・発展させるためのものであり、これまでの大学入試センター試験に代わり、令和3年度大学入学者選抜から、高校までに育成した思考力・判断力等の評価をより重視した「大学入学共通テスト」を導入するとともに、各大学においても入学志願者の能力・意欲・適性等をより多面的・総合的に評価していくための入学者選抜が実施されることになります。

また、文部科学省においては、一般入試のほか、大学教育を受けるために必要な基礎学力の確保を前提として、一点刻みの評価からの脱却を目指した入試方法の多様化を推進しており、例えば、国立大学全体として令和3年度までにAO・推薦入試等による入学者を3割とすることを目指して改革が進められています。

## 「高大接続改革」の必要性



「学力の3要素」の一つである、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価することについて、令和6年度に実施される新学習指導要領に対応した最初の個別入試に向けた調査書や受験生本人が記載する資料の在り方等について検討を行うべく、令和2年3月19日より「大学入試における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」において議論を開始したところであり、年内を目途に検討しています。

## 2 大学入学者選抜における英語4技能評価について

高等学校学習指導要領において、英語の「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能の総合的な育成が求められていることを踏まえ、大学入学者選抜においても、高校段階までに育成した英語4技能を適切に評価するために、高校教育や大学入学者選抜で活用が進んでいる英語資格・検定試験の成績を大学入試センターで一元的に集約し、大学へ成績提供する「大学入試英語成績提供システム」を令和2年度から導入することとしていました。

しかしながら、受験生が経済的な状況や居住している地域に関わらず、等しく安心して試験を受けられるようするためには更なる時間が必要だと判断し、令和元年11月1日、令和2年度からの導入延期を発表しました。

システム導入見送り後も、各大学の判断により、大学入学者選抜において英語資格・検定試験を活用することは可能であり、文部科学省では、各大学の令和3年度大学入学者選抜における英語資格・検定試験活用の有無、活用方法等を取りまとめ、受験生の利便性に資するよう、文部科学省のホームページ等で紹介しています。

([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/koudai/detail/1420229.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1420229.htm)) (令和2年3月2日時点)

## 3 大学入学者選抜における記述式問題について

「大学入学共通テスト」においては、自らの力で考えをまとめたり、相手が理解できるよう根拠に基づいて論述する等の思考力・判断力・表現力を評価するため、国語、数学におい

て記述式問題を導入することとしていました。

しかしながら、採点の体制や精度、自己採点と採点結果との不一致の問題について、受験生の不安を払拭し、安心して受験できる体制を早急に整えることは困難であると判断し、令和元年12月17日、令和3年度「大学入学共通テスト」における導入を見送ることを発表しました。

それに伴い、令和2年1月29日、令和3年度「大学入学共通テスト」に関して、文部科学省においては出題教科・科目及び試験時間について、大学入試センターにおいては出題範囲や問題の作成方針について、必要となる見直しをそれぞれ決定し、公表しました。

## 4 大学入試のあり方に関する検討会議について

文部科学省では、こうした経緯を踏まえ、英語4技能評価や記述式問題の出題を含めた今後の大学入学者選抜の在り方について検討するため、令和2年1月15日より、文部科学大臣のもとに「大学入試のあり方に関する検討会議」において議論を開始しました。

検討に当たっては、これまで指摘された課題や、「大学入試英語成績提供システム」の導入延期や記述式問題が見送りとなった経緯も検証し、それらを踏まえて議論が行われています。

検討会議は令和2年4月末現在で6回開催しており、大学関係者や高校関係者等をはじめとした各委員より以下のような様々な意見や指摘等をいただいています。

### 大学入試のあり方に関する検討会議の開催について

「大学入試英語成績提供システム」及び大学入学共通テストにおける国語・数学の記述式に係る今般の一連の経過を踏まえ、大学入試における英語4技能の評価や記述式出題を含めた大学入試のあり方について検討を行う。

#### ◇検討事項

- (1) 英語4技能評価のあり方
- (2) 記述式出題のあり方
- (3) 経済的な状況や居住地域、障害の有無等にかかわらず、安心して試験を受けられる配慮
- (4) その他大学入試の望ましいあり方

#### ◇委員 (◎座長 ○座長代理)

##### (有識者委員)

- 荒瀬 克巳 関西国際大学基盤教育機構教授
- 川嶋太津夫 大阪大学高等教育・入試研究開発センター長(特任教授(常勤))
- 齋木 尚子 東京大学公共政策大学院客員教授、前外務省研修所長(元同国際法局長・経済局長)
- 穴戸 和成 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所理事長
- 島田 康行 筑波大学人文社会系教授
- 清水 美憲 筑波大学大学院教育研究科長・教授
- 末富 芳 日本大学文理学部教授
- 益戸 正樹 UIPath株式会社特別顧問、株式会社肥後銀行社外取締役
- ◎三島 良直 国立研究開発法人日本医療研究開発機構理事長、東京工業大学名誉教授・前学長
- 角亜希子 東京大学大学院教育学研究科准教授
- 渡部 良典 上智大学言語科学研究科教授

##### (団体代表委員)

- 岡 正朗 山口大学学長、一般社団法人国立大学協会入試委員会委員長
- 小林 弘祐 学校法人北里研究所理事長、日本私立大学協会常務理事
- 芝井 敬司 関西大学学長、一般社団法人日本私立大学連盟常務理事
- 柴田洋三郎 公立大学法人福岡県立大学理事長・学長、一般社団法人公立大学協会指名理事
- 萩原 聡 東京都立西高等学校長、全国高等学校長協会会長
- 吉田 晋 学校法人富士見ヶ丘学園理事長、富士見ヶ丘中等高等学校校長、日本私立中学高等学校連合会会長
- 牧田 和樹 一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長

##### (オブザーバー)

- 山本 廣基 独立行政法人大学入試センター理事長

#### ◇これまでの開催状況

令和2年1月15日第1回開催、令和2年4月末までに6回開催

例えば英語4技能の評価の在り方については、これまでに、

- ①英語4技能については、大学入学者選抜のみではなく、高校教育・大学教育を通じた育成・評価が重要ではないか、
- ②英語4技能を共通テストで評価することは困難であり、原則各大学の個別の入学者選抜で評価すべきではないか、
- ③英語成績提供システム延期後も、多くの大学が英語資格・検定試験を入学者選抜で活用

する予定であり、4年後には何らかの形で大学や受験生の手間を省くシステムの導入を期待する 等

記述式問題については、

①新学習指導要領において思考力・表現力の育成が一層重視される中、入学者選抜における記述式の出題は重要ではないか

②共通テストで記述式問題を課す場合、多くの制約を設けざるを得ず、思考力・表現力をどこまで測れるのか

③多くの国立大学では既に個別試験で記述式問題を出題しており、実態を踏まえた検討が必要ではないか 等

文部科学省としては、高大接続改革そのものや、思考力・判断力・表現力や、英語によるコミュニケーション能力を育成・評価することの重要性は変わるものではないと考えています。

検討会議においても、これらの重要性は踏まえた上で、入学者選抜と高校教育や大学教育との役割分担をどう考えるか、どこまでを入学者選抜で問うか、大学入学共通テストと各大学の個別の入学者選抜との役割分担をどのように考えるか等について、率直な議論を行い、令和2年末を目途に提言をまとめていけるよう、検討が進められています。